

## まちを博物館に！千代田レジェンド・リノベーション －法政大学 江戸東京研究センター－

### 目 的

東京・千代田区の地下には歴史的遺構（レジェンド）が数多く眠っている。歴史的遺構とは、江戸城城壁や見附跡、そして川や運河など水路の遺物を指す。そうした遺構を見つけ出し、仮想的に再生（リノベーション）させることで、千代田学のテーマのひとつ「ウォーカブルなまちづくり」に寄与できる提案を目指した。

研究代表者の皆川典久は、法政大学大学院デザイン工学部の受講生と共に「東京発掘プロジェクト」と称して、歴史的遺構の仮想的発掘と再生提案を、東京全域を対象に5年間行ってきた。今回は千代田区を対象に、歴史的遺構を歩いて体験できるよう「まちを博物館に！」を表題に掲げ、分野横断的な研究と提案を試みた。建築学や都市計画学を専攻する研究者たちの「提案」をきっかけに、ウォーカブルなまちづくりに関する議論が深められたらと思う。

### 研究内容・結果

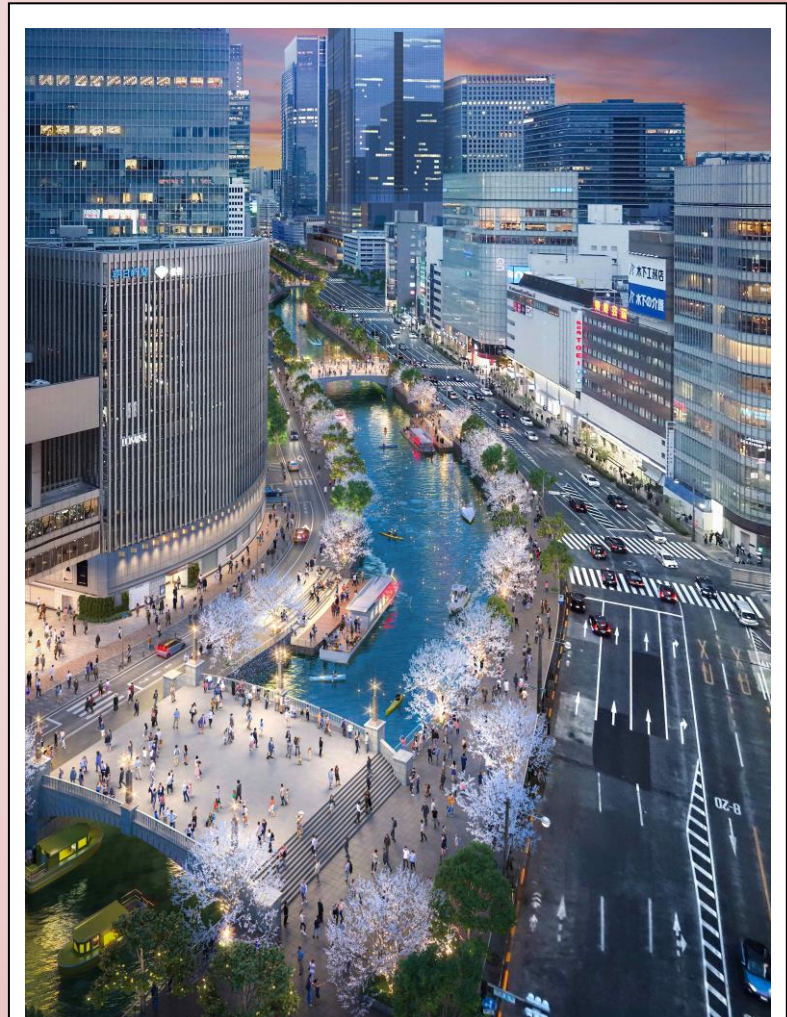
歴史的遺構（レジェンド）を見つけ出すための基礎的研究として、江戸時代に描かれた図版や絵図、そして明治期以降に製作された古地図を参照した。遺構を再生（リノベーション）させる意義については賛否両論あったが、懐古趣味に留まることなく、観光資源として積極的に位置づけ、まち自体を博物館に見立てることでウォーカブルなまちづくりを目指す、ひとつの手法として有効であろうとの結論を得た。さらに水路や堀の復活は、非常時の輸送路確保など防災面でも有効性であり、未来志向な方向性をみなで共有した。

現地調査を4回実施し、机上では得られない情報を収集し、研究を深度化させるモチベーションに繋がった。2024年1月20日には法政大学市ヶ谷田町校舎にて、成果発表会を公開で行い、学生以外に一般からも60名を超える参加者があった。「水辺があれば広場のように人が集まり、新たなパブリックスペースの創出になる」、「新名所はオーバーツーリズム対策としても有効」、「このような取組を千代田区以外でも行ってほしい」などの意見が寄せられた。



上：東京駅八重洲口前にあった外堀を再生させた場合のイメージ図  
東京駅から船で日本橋や東京スカイツリー、お台場などへ行くことが可能となる。羽田空港から東京駅への舟運アクセスも可能だ

右：外堀を再生させ、数寄屋橋を復活させた場合のイメージ図  
空地や広場に乏しい有楽町や銀座に、「水辺」を中心とした公共スペースが新たに創出される。地域資産が観光名所へと転換させる提案



### 考察・まとめ

本事業の成果をきっかけに、ウォーカブルなまちづくりへの関心が高まり、自分たちの町の将来像を議論するムーブメントになることを願う。この取組みは産学官の連携によって、実践的な活動を触発する起爆剤になり得ると確信している。